

導する本格的なものだ。興味深いのはソルヴィラージュ新築移転の際に、これらの教室を開催できる施設づくりを進めたこと。利用者に最も人気が高いのは陶芸クラブ。これに関して齋藤氏は振り返る。

「新築移転前から陶芸教室を開催し、民間の陶芸教室に委託して利用者さんの作品の焼成を行ってきましたが、その教室に通われていたシニア世代の生徒さんが、『近い将来、体が不自由になっても、ソルヴィラージュにお世話になれば陶芸を続

けられるのですね!』との一言から、新生ソルヴィラージュに陶芸窯の導入を理事長にお願いしたのです。“うたのレッスン”も施設内に教室を設置し、レッスンプログが講師を務めて腹式呼吸の練習から始めると、これまで声の出にくかった人も歌えるようになりました。各クラブの利用者さんには実費しかいただいていないので、SUN SUN クラブ単体で考えると先行投資が大きく赤字ですが、知識欲が高く余暇や趣味にお金を使う団塊世代の方々の利用が本

格化するようになると、“ホンモノのレクリエーション”でなければ、満足されないでしょう」。

施設面では、リニューアルによりソルヴィラージュの周辺に全長200mの遊歩道を設置。日野病院とソルヴィラージュの患者・利用者の屋外リハビリテーションに利用される。公園スペースや東屋のある緑地も整備され、利用者家族や見舞客も、暖かくなると季節を感じながら“憩いの場”として散策を楽しめる。

(本誌編集専門委員 富井 淑夫)